

## 厳島八景遊覧プロジェクト—景観の歴史とアートを学ぶ—

報告：城市真理子

### はじめに

本プロジェクトは、本学 COC + における芸術学部・宮島マップ作成事業「版画を用いた宮島観光マップ(宮島双六)の制作と研究」(担当 釣谷幸輝)と国際学部が連携した 2 年連続の事業である。

「宮島マップ」制作に携わる学生たちに、特に 1 年目に学内で国際学部の教員から厳島八景成立の歴史、江戸時代におけるそのヴィジュアル・イメージの展開と普及、また、宮島沿岸の七浦について学んでもらい、実際に宮島でその八景や七浦をめぐるという体験をして、2 年目のマップ制作に取り組んでもらう。また、国際学部の学生や留学生、教員も協力して、外国語ヴァージョンも作成するという内容であった。参加する学生たちの地域理解のみならず留学生の日本文化理解にも資することになる。

もちろん、COC + 事業での宮島マップ企画では、伝統的な板目木版画制作の技術やマップの構成に関してなど、芸術学部の教員の指導のもと、芸術学部の学生たちによって進められており、国際学部サイドの社会連携プロジェクトでは、その前段階、つまり八景や七浦の各所の伝統的な図様やそれらの歴史的な意味を学び、さらに実地で体験することで、制作の学生たちの豊かな発想につながってもらいたいという企図があった。さらに、国際学部の学生・教員の協力で外国語版も作るということによって、外国人観光客の多い当地にふさわしいものができるだろうという、二つの学部をつなぐ 2 年連続の連携プロジェクトであった。

申請に際し、初年度の連携先として高橋修三(宮島歴史民俗資料館学芸員)、向田裕始(同館協議会委員)、芸術学部・釣谷幸輝、国際学部・武藤彩加、2 年目は、それに加えて国際学部・古澤嘉朗、写真映像教務員・橋本健佑が参加した(敬称略)。

### 1. 平成 28 年度の実施スケジュールと内容

まずはプログラムと趣旨の概要を作成せねばならない。宮島のマップ作成に役立つ知識として、厳島八景と七浦は必須である。厳島八景に関しては、本プロジェクトの代表者(城市)は、それ以前に特定研究「広島県および周辺地域における文化財の調査および研究」(代表 城市真理子 2013 - 2015)で地域の文化財調査の折に作例を調べており、資料写真もある上、厳島八景の濫觴からさらにヴィジュアル・イメージの成立と広がりが説明できる。厳島の歴史や七浦も含めた地誌に関しては、元広島県立歴史民俗資料館館長である向田裕始氏に依頼した。

芸術学部・国際学部の教員には参加学生を集めていただくこととし、そのための、おおよそのスケジュールをいれた趣旨説明と希望者の申し込み書を用意し、説明会を開催した。この参加者動員のための説明会は 2 年目も同様に行っている。

平成 28 年度実施のスケジュールは以下ようになった。

7 月 26 日(火) 学内 参加者募集・ガイダンス

8 月 16 日(火) 学内

講座 「厳島八景の歴史と美術」

①プロジェクト概要説明 城市・釣谷

②レクチャー1 「厳島八景の歴史とヴィジュアルイメージの変遷」城市真理子

③レクチャー2 「七浦の歴史と意味」向田裕始

8 月 17 日(水) 学外見学

午前 大学からバスで移動

遊覧船に乗船、七浦巡り

午後 宮島歴史民俗資料館に集合

④レクチャー3 「厳島の歴史」同館学芸員 高橋修三  
厳島神社拝観・宝物館見学

宮島口からバスに乗車、大学前で、この日の解散

8 月 18 日(木) 学外見学

午前 フェリーで宮島に渡り、宮島八景めぐりを開始

午後 紅葉谷からロープウェイで山頂に登る。

獅子岩駅から弥山の山頂へ行き、弥山本堂 大日堂などをめぐり、大元公園まで下山。

宮島口からバスに乗車、大学前で、この日の解散

※ 厳島八景見学に向田氏が同行・解説

説明会も入れると 4 日かけた内容・行程である。八景、七浦のほか、弥山の求聞持堂や満干岩など、翌年に制作したマップに入れたモチーフになる場所をめぐった。学生たちが、それらを実地で説明を聞きながら歩き、見ているという体験が、絵画化する上でも有益であったらと思われる。制作につながる教育プログラムとして、参加学生たちには、「宮島マップのための覚え書きノート」というワークシートを配布した。

「宮島マップのための覚え書きノート」では、下記の 4 つの項目を設定し、300 字の文章あるいはイメージ画で記録するとした。

実際に学生が記入したワークシートも載せる〔図 1〕。

3 日間にわたって、厳島八景遊覧プロジェクトに参加し、初めて学び、見聞きし、体験したことが多くあった事と思います。以下の 4 つの項目に関して、それぞれ印象に残ったことを、イメージ画か 300 字程度の文章で表してください。

①八景(長澤蘆雪や版本の絵画と関連して)

②七浦(七浦の歴史や遊覧船での七浦巡りと関連して)

③弥山(八景や山歩きと関連して)

④宮島の名所の歴史(厳島神社と関わる文学や文化財と関連して)

参考資料として、このときの募集案内を載せる。

平成28年度 社会連携プロジェクト

「厳島八景に関する教育事業」

厳島八景遊覧プロジェクト—景観の歴史とアートを学ぶ—

広島市立大学では、本学教員が広島市など行政や市民団体、COC+事業との協働事業を行うことで、地域の発展に貢献する事業を支援しています。

今年度の社会連携プロジェクト「厳島八景に関する教育事業」では、厳島八景(宮島八景)を手がかりに、宮島の歴史や文化、ひいては広島市ともつながる文化的・社会的背景を学生たちが学び、歴史文化への理解を深めたくうえで国際交流や芸術活動に展開させるための人材育成を目的としています。

#### 【概要】

宮島が名所となった歴史は古く、瀬戸内海の海上交通の歴史とも結びつき、海の安全を祈る厳島神社の創建は平安時代にさかのぼり、多くの文化財が現在まで伝えられてきている。なかでも厳島八景(宮島八景)は、江戸時代に入って、それまで醸成されてきた名所という意識を具体化させた。和歌や漢詩、絵画が一連のものとして版本が編纂され、全国に普及したことはよく知られている。

このプロジェクトでは、厳島八景成立の歴史と、江戸時代におけるそのイメージの展開と普及を学生たちが学内で学び、実際に宮島で、その八景をめぐることで、現在の宮島の名所風景と歴史的なイメージとの異同を確認し、レクチャーを受けることで、宮島イメージの変遷を具体的に、歴史的背景とともに学ぶ教育事業である。芸術学部 COC+での宮島でのアート活動(「版画を用いた宮島観光マップ(宮島双六)の制作と研究」の作製)に関わる学生が加わり、国際学部では、来年度の宮島のアート活動や留学生の日本文化理解に協力することで、本事業の経験を学生の人格形成と地域理解に生かすことを目的とする。

美術制作も語学力も、伝える内容の充実が重要である。宮島が名所となった歴史と、それがどうビジュアルイメージや文芸を介して流布したのかを学ぶことが、人々が憧憬した名所とは何かを深く考えることとなる。将来的に、学生たちの美術制作や国際交流に大きな効果が期待されるものである。

平成28年度の参加者は、芸術学部生 14名、国際学部学生 4名、芸術学部教員 5名、国際学部教員 3名、その他 TA、研究員・撮影担当技師 3名である。

加えて、広島経済大学国際交流室に依頼し、同大学のジョージ・ハラダ教授と2名の学生が参加した。

以上は総数なので、全日程を全員が参加できたわけではないが、バスや遊覧船の乗客可能な人数からすれば、これで限度いっぱいといえるだろう。

実施内容について振り返ると、まず、天候にも恵まれ、特にけが人や事故がなくスケジュールに沿って順調に予定が進んだことは

幸いであった。「厳島八景」や七浦巡りをはじめとする厳島の神事にまつわる名所の歴史の事前レクチャーはあったが、なにより実地でその祭祀の場を訪れ、歴史を実感するという体験ができた。弥山の下山の途中にあるいくつもの古社寺や名所を向田氏の説明を聞きながら巡ることができたのは、学生のみならず教員にとっても新鮮な経験だったようである。16日の講義の他、17日には、宮島歴史民俗資料館で、高橋修三学芸員から宮島の名所化の歴史を文献資料によって説く講義があり、講義と実地の学習が一体となるプログラムであった。

翌年度に、COC+事業の宮島の観光マップを実際に制作するという課題(担当 釣谷)があるが、その学生たち(1年生、15人程度)がマップを作成するうえで必要な歴史的・美術史的な知識を学び、同時に、国際学部から参加する、日本美術史や文化史に関心をもつ学部生や大学院生(申請者が担当する日本美術史や博物館学の受講生を中心に)、留学生との交流活動を行う学生など10数名もともに学ぶことで、来年度以降、観光マップの外国語ヴァージョンの作成に協力し、留学生のための宮島見学に協力するなど、更に発展的な活動に資するというヴィジョンに沿った内容で、当年度の事業が行えたといえるだろう。

## 2. 平成29年度の実施スケジュールと内容

当年度は、前年度と同様に学習や見学を行う内容に加え、芸術学部生が宮島マップ(板目木版による《双六》)を制作し、留学生たちが外国語版(英語・フランス語・中国語)作成に協力するという企画である。国際学部の学生は留学生の日本文化理解をサポートしながら、同時に自分たちも宮島に関する文化的背景を学ぶことになる。もちろん、日本語版・英語版で公開できるものに仕上げていく過程で、マップ中の語句や文章のチェックは城市が行い、英訳は国際学部の教員(古澤嘉朗)が引き受け、芸術学部の教員(チャールズ・ウォーゼン)が英文の最終チェックをした。

学内講義での宮島マップ双六に入れる説明文の作成の際には、制作の学生だけでなく学内の留学生たちも参加した。向田氏や国際学部の教員が内容にアドバイスをし、広島経済大学の教員ジョージ・ハラダ教授・学生(留学生も含む)も参加した。

12月には、広島のグラフ雑誌『Grandeひろしま』に、マップの画像入りで、2ページにわたる紹介記事が掲載された。

平成29年度実施のスケジュールは以下のようになった。

6月28日(水) 学内説明会

7月8日(土) 学内での講義・宮島マップ双六制作の協力プログラム概要・主旨説明  
宮島マップ・双六の各場面について概略説明  
翻訳作業の参加者による分担作業

- 7月 9日(日) 宮島での八景等、名所の見学と確認  
 午前 遊覧船で島を1周する。  
 船中で、七浦の解説を受ける。  
 午後 神社拝観・八景巡り(解説付き)
- 7月～9月末 英訳版の作成(古澤准教授が主導)  
 宮島マップ双六の版下の作成
- 12月 『Grande ひろしま』Vol.19 に紹介記事を掲載  
 宮島マップ双六の印刷

当年度の参加者について詳細を述べれば、7月8日(土)は21名(国際6名・芸術13名、経済大2名)、7月8日(日)は24名(国際6名・芸術14名・経済大2名、その他2名)が参加した。今年度の企画での各国語翻訳では留学生が参加し、国際学部 of ヴェトナム・中国の留学生、芸術学部・研究科では、フランス・中国の留学生が参加した。8日の双六のコマの翻訳では、フランス語・中国語も留学生たちが作成してくれている。

## おわりに

『Grande ひろしま』Vol.19 の筆者による紹介記事(図2)を以下に転載し、2年連続のプロジェクトの報告の締めめに代えたい。なにより、当時の感慨、実感があふれていると思えるからである。

平成 28, 29 年度 広島市立大学社会連携プロジェクト  
 「厳島八景に関する教育事業」  
 厳島八景遊覧プロジェクト  
 —景観の歴史とアートを学ぶ—

2年前、「宮島の裏側を見てみたいと思いませんか?」と声をかけたことから、広島市立大学の社会連携プロジェクト「厳島八景に関する教育事業」が始まり、この秋、「宮島双六観光マップ」が完成した。このプロジェクトは、芸術学部のマップ制作に国際学部が協力するというもので、両学部の学生たちは宮島に関する歴史、民俗、美術や文学に関する講義を受け、実地見学の授業を受けることで、学生たちのマップ制作に生かせるようにしようという教育プログラムである。講師にお招きした向田裕始先生から七浦の歴史と意味について、『芸州厳島図会』(1842年)などを用いたレクチャーをしていただき、私も厳島八景の成立やその絵画化などの講義を行った。また、実地を巡りながら、向田先生が解説してくださっている。そういうことで、私たちは、2度の夏、宮島の周囲を遊覧船で周った。もちろん本土から見えない側も船から眺め、上陸もした。

七浦の七つの社を拝し、厳島神社に参拝し、弥山の道を歩き、八景を巡った。つまり、私を含め、参加者は皆、宮島の実景とその絵画化されたものを見比べて学ぶ機会を得たことになる。

広島市立大学では、平成27年度から文科省選定の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の「観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業」を行うという課題があった。そのため、芸術学部では版画を専門とする釣谷幸輝講師(油絵専攻)の指導で、学生による「宮島双六観光マップ」制作を実施することとなっていた。

一方で、江戸時代の「厳島八景図」など日本美術史を研究する私には、現代のアーティストである芸術学部の学生たちに、名所が成立する歴史や機縁とそのビジュアルイメージの成立についてぜひ学んでほしいという想いがあり、グローバルな活躍をめざす国際学部の学生たちに対しても、この経験を通してこの土地の「現在」が遙かに長い過去からの積み重ねであることを心に留めてほしい。また、私自身もかねてから江戸時代の旅人のように、船で七浦を巡り、八景を確認したいと思っていた。各々の事情や想い、タイミングがそろって、このマップ制作に協力するプロジェクトを立ち上げたのである。

「宮島双六観光マップ」は、日本の伝統木目版画の手法を用い、江戸時代のすごろくの形をとりながら、各コマの厳島八景や七浦など宮島の名所を巡りつつ、それらの歴史や伝説、ランドマークをたどるというもので、学生たちが絵を描き、コマに入れる言葉も広島弁の説明を付けた。それが、本誌に掲載の「宮島双六観光マップ」(日本語版)である。

当初、留学生たちも参加して各国語版を用意しようということであったが、今年度は、外国語は英語版のみとなった。広島経済大学の国際教育交流センターの協力を得て、同大学の教員・学生たちにも参加していただき、また本学の国際学部教員が中心となって、学生・留学生も一緒に英訳文を作成した。文化や言葉の壁を越えて一緒に楽しみながら、宮島について学べる双六マップである。

最近ますます増えている海外からの観光客にも、また、もちろん国内の方々にも、「わくわくする」という学生たちのときめく想いが形になった、この「宮島双六観光マップ」で名所の歴史や神事にも触れながら島めぐりを楽めるのではないと思う。

2年にわたる本プロジェクトの実行に当たっては、多くの方、施

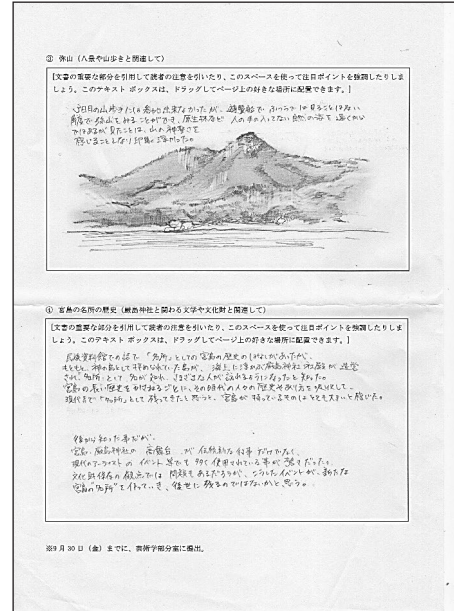
設のご高配・ご協力があった。末筆ながら、謝意を表したい。

両年とも広島経済大学国際交流センターには同大学の参加教員・学生についてご紹介いただいた。学内の講義のみならず向田裕始氏（宮島歴史民俗資料館協議会委員）には、弥山の山中や七浦巡りの船上で詳しくご解説をいただいた。宮島歴史民俗資料館では高橋修三学芸員が宮島の文献資料を配付してご説明いただいた。2年目には、『Grandeひろしま』編集部取材や記事の掲載でご快諾いただいた。

学内では、とりわけ古澤嘉朗先生に英訳に関し懇切なご協力をいただいた。また、社会連携センターの事務の方々にも事務手続きなど親切にご対応いただいた。芸術学部の畠中彩さんは『Grandeひろしま』に文章を載せ、また、様々な連絡係も務めてもらった。

なお、当年度の七浦巡りの遊覧船チャーターは国際学部による費用の追加補助があった。また、マップ制作の材料費は、本プロジェクトから支出しており、歴史・地誌・絵画史、英訳の専門的な内容面だけでなく、費用面での協力も大きかったことを付加しておく。こうした企画予算のことも含め、多方面に感謝したい。

(じょういち まりこ)



【図1】ワークシート「宮島マップのための覚え書きノート」参加学生が記入したシートの一例から抜粋。

**芸術を学ぶ学生が作った伝統的な板目木版画、「宮島双六観光マップ」**  
宮島歴史民俗資料館 城市真理子

平成29年度広島市中大学 芸術学部プロジェクト  
「板目木版印刷の普及推進」  
「宮島双六観光マップ」制作  
——双六の歴史とアート——

2年間の活動の軌跡を見たいという思いから、市が呼びかけた。広島市立大学、社会福祉プロシナク上野町、広島県教育委員会、この他に宮島双六観光マップ制作のメンバーとして、国際学部が協力をしている。この中で、学生たちは宮島にまつわる歴史・民俗学に関する講義を受け、実地学習の経験を得て、学生たちのマップ制作にかかわることにしている。教育プロジェクトである講座に、お招きした向田裕始先生が宮島歴史民俗資料館館長から七浦巡りの歴史について、宮島双六の歴史について、三浦君とシャワーをしながら、板目木の歴史やその製法などについて、講義を行った。また、実地学習のために、向田先生が準備してくだ

さているそういことで、私達は、宮島の歴史の調査を開始した。最初は、板目木の歴史を調べることにしたが、板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。

現代のアーティストである新井聖一氏の作品「ミッドナイト・ブルー」も、板目木の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。

の、で、学生たちが調査を進めていく。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。

宮島双六の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。

宮島双六の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。板目木の歴史を調べることは、宮島双六の歴史を調べることに繋がった。

【図2】『Grandeひろしま』(Vol.19 2017年12月)の該当ページ(一部マスキング)。「宮島双六マップ」も同号にカラーで掲載。[許可を得て転載]